



## プロ技工士への旅立ち

附属歯科技工士学校長 野 田 忠

27期生の皆さん、卒業おめでとうございます。2年前、歯科技工士という職業がどんなものかよく分からないままに入学し、歯学部の桜がきれいに見える技工士学校での生活が始まったころは、不安と期待が入り混じっていたことと思います。初めて行った実習のカービングでは、戸惑いや手が思うように動かないもどかしさがあったと思います。あれから2年が経ち、歯科技工の基本的な理論と実技を学び、2年生では臨床ケースと反復実習に明け暮れましたが、歯科技工士としての自信がついてきたことと思います。

歯科技工士学校での2年間は、過密な授業と実習に追われ、ともすれば単調になりやすい実技の繰り返しで、かなり苦しい2年間であったと思いますが、この2年間をクリアしたことは、あなたたちを大きく成長させたと思いますし、これか

らの人生での大きな支えになるものと思います。

新潟大学の歯科技工士学校は、単に技術だけの歯科技工士ではなく、しっかりしたバックグラウンドを持った歯科技工士の養成を目指し、解剖学や顎の機能、材料の性質などさまざまな要素を考え、それらをベースにして、患者さんに喜ばれる技工物を作れる歯科技工士になれるよう教育してきました。皆さんは自信を持ってこれからプロの技工士へ旅立ってください。

卒業はプロの技工士へのスタートです。これからが大変です。新しい技術の習得はもちろん、「より良いもの」を求めて、終わりのない旅です。

歯科は『食べる』ことのサポートが一番大きな役目です。歯科医師、歯科衛生士と共に、一生涯楽しく元気に食べるためのサポーターとして、大きく育つことを期待します。



## 卒業にあたって

歯科技工士学校 第27期生 荒井 秀明



早いもので、歯科技工士学校に入学して、もう2年の月日が経とうとしています。この2年間は、1日1日がとても長かったけれど、卒業を目の前に控え振り返ってみると、とても短かったように感じます。

1年生の時は、歯科技工の基礎を学ぶため、講義も実習も精一杯取り組んできました。カービンから始まった基礎実習は、歯についての知識が何もない私を大変困らせました。しかし、段々と歯の形に近づいていく過程を見て、楽しくなっていました。教わること全てがとても新鮮で、慣れない作業や言葉に戸惑いながらも、楽しく取り組むことができました。

しかし、2年生になると、反復実習と並行して臨床実習も始まり、実習に追われる毎日になりま

した。1年生の時の基礎実習のようにわかりやすく、作業しやすいものでも手間取っていた私が、臨床実習で実際の患者さんの口腔内に入れる技工物を作ると言うことは、とても大変で何度も先生の注意や指導を受けました。その度に自分自身への甘さ、知識や技術の無さを実感させられました。それでも、臨床実習で患者さんに直接あつて、自分が製作した技工物がセットされるのを見ることができたことは、貴重な体験でした。自分が製作した技工物で患者さんが喜ぶ姿を見ることができた時は、すごく嬉しかったし、忙しくて大変な実習も「また頑張ろう」という気持ちになり、とても励みになりました。臨床実習は大変だったけれど、歯科技工をしていく上での大切な事をたくさん学べた気がします。

2年間という短い間だったけれど、落ち込んだ時に励ましてくれた友人、覚えの悪い私に何度も丁寧に指導して下さった先生方に、感謝したいと思います。これからも先生のいつも言っていた「努力は嘘を付かない」という言葉を胸に、日々の努力を忘れないようにして、立派な歯科技工士になれるように頑張っていきたいと思います。

